

読賣新聞

2011年(平成23年)

7月12日 火曜日

三浦半島断層群 地震確率高まる

政府の地震調査委員会は11日、東日本大震災に伴う地殻変動で、神奈川県を走る活断層「三浦半島断層群」の地震発生確率が高まった可能性があると発表した。確率が高まったと評価された活断層は、双葉断層、立川断層帯、糸魚川―静岡構造線活断層系(中部)に続き



●地震発生確率が高まった可能性のある活断層

四つ目。同活断層系の牛伏寺断層(長野県)付近では、震度5強の地震が6月30日に起きるなど、地震活動が活発化している。三浦半島断層群は、武山、衣笠・北武断層帯などからなる。同委員会によると、大震災後も周辺の地盤がゆっくりずれ動いて、断層にかかる力が変化しており、同断層群でも地震が起きやすくなったという。同委員会はこれまで、同断層群で30年以内に地震が発生する確率について、最も高い武山断層帯で「マグニチュード6.6程度かそれ以上」が65.1%と評価していた。